

就職演習

授業の目的・概要

本授業は、動物業界を含む就職活動に必要な基礎力と実践力を身につけ、社会人としての適応力を養うことを目的とする。自己分析や価値観の整理を通して自身の強みや適性を理解し、自己 PR や志望動機の作成を通じて表現力を高める。また、履歴書作成や応募書類対策、面接練習、グループディスカッションを通じて、選考過程に対応できる実践的能力を育成する。さらに、ビジネスマナーや一般常識を学び、企業が求める人物像への理解を深めることで、主体的に就職活動へ取り組む姿勢と社会人基礎力の向上を図る。

科	生命科学科	教員	岡田 有沙
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	動物関連産業 20 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・自己理解を深める
自分の強み・弱み、興味、価値観を整理して、目指す職へのビジョンを明確にする。
- ・就職活動の基本を学ぶ
企業研究の方法、マナーなどを学ぶ。
- ・就職後に必要な知識を学ぶ
労働について理解する。

授業計画

- 第 1 回 面接を意識した自己紹介
- 第 2 回 就職への道
- 第 3 回 自己分析①
- 第 4 回 価値観①
- 第 5 回 価値観②
- 第 6 回 求めるもの①
- 第 7 回 求めるもの②
- 第 8 回 自己分析②
- 第 9 回 自己アピール力・他己分析
- 第 10 回 強みとスキル
- 第 11 回 応募書類・書類審査について
- 第 12 回 自己 PR 作成①

- 第 13 回 自己 PR 作成②
- 第 14 回 志望動機の手書き
- 第 15 回 自宅課題：履歴書の記入
- 第 16 回 試験返却・試験の振り返り
- 第 17 回 就活進捗状況確認①
- 第 18 回 就活進捗状況確認②
- 第 19 回 面接①
- 第 20 回 面接②
- 第 21 回 面接③
- 第 22 回 グループディスカッション①
- 第 23 回 グループディスカッション②
- 第 24 回 会社に求められる能力
- 第 25 回 ビジネスマナー ～社会人になったら～①
- 第 26 回 ビジネスマナー ～社会人になったら～②
- 第 27 回 ビジネスマナー ～社会人になったら～③
- 第 28 回 ビジネス・一般常識①
- 第 29 回 ビジネス・一般常識②
- 第 30 回 ビジネス・一般常識③

授業の方法

演習

教材

必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 20%、平常点 20%（出席率、授業態度等）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で出される課題をノートで提出

実務経験と授業科目の関係

店長として店舗運営に携わり、採用面接官として多数の人材選考を経験。

「企業が求める人物像」や「面接で評価されるポイント」に関する知見を活かし、

2026 年度

学生一人ひとりの強みを引き出す。

経営概論

授業の目的・概要

本授業は、動物関連分野における事業運営やサービス提供に必要な経営の基礎知識を理解し、実践的な思考力を養うことを目的とする。経営理念と戦略の関係、環境分析やSWOT分析を通じた経営判断の基礎を学ぶとともに、成長戦略や事業ポートフォリオの考え方を理解する。また、売上構造やKPIを用いた数値管理の基礎を学び、改善につなげる力を養う。さらに、マーケティングの基本概念やSTP分析、4Pなどを用いた戦略立案を通して、顧客視点に立った企画力・分析力の育成を図る。グループワークを通じて、実践的な課題解決能力と協働力の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	津田
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	ペットショップ歴6年
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

前期

- ・経営戦略を学習し、企業活動・経営活動の意義・意味を理解することができる。
- ・企業活動の方向性、成長戦略、競争戦略の諸理論の理解を通して、現状を把握し、その状況を打開するための下地を構築することができる。

後期

- ・マーケティングを学習し、それらを実施していくうえでの重要ポイントの網羅と、それぞれのポイントが有機的に連携する重要性を理解することができる。
- ・経営や業務遂行のための実践的な知識・思考を身に付けることができる。

授業計画

- 1週 経営戦略について(目標・授業・評価方法説明)
- 2週 経営戦略(経営理念、企業のこだわり、理念と戦略)

- 3週 経営戦略（経営理念、理念と業務、理念と優先順位）
- 4週 経営戦略（環境分析、マクロ環境とミクロ環境、日本特有の環境）
- 5週 経営戦略（環境分析、SWOT 分析）
- 6週 成長戦略（成長ベクトル、企業成長の過程）
- 7週 成長戦略（多角化戦略、さらなる成長のために）
- 8週 成長戦略（事業ポートフォリオ、事業と資金の循環）
- 9週 成長戦略（事業ポートフォリオ、経験の成果と製品の循環）
- 10週 成長戦略（内部成長方式と外部成長方式、自己成長、提携）
- 11週 売上管理（売上の構造理解、売上＝客数×客単価の考え方）
- 12週 売上管理（客数・客単価の分析方法、改善の考え方）
- 13週 売上管理（簡単な数値計算と目標設定、KPI の基礎）
- 14週 売上管理（演習：売上データを用いた分析と改善案の検討）
- 15週 前期の振り返り
- 16週 マーケティングについて（基本概念と目的）
- 17週 マーケティングと販売の違い（役割の違いと関係性）
- 18週 一般的なマーケティングの流れ（市場調査～販売までのプロセス）
- 19週 マーケティング（STP 分析）
- 20週 マーケティング（水平思考）
- 21週 グループディスカッション（成功している店舗の特徴検討まとめ）
- 22週 グループディスカッション（売上向上のための施策検討まとめ）
- 23週 マーケティング（顧客価値について）
- 24週 マーケティング（4P について）
- 25週 マーケティング（バリュープロポジションについて）
- 26週 マーケティング（普及率 16%について）
- 27週 グループディスカッション（ターゲット設定と商品企画の検討）
- 28週 グループディスカッション（4P 用いた販売戦略の検討）
- 29週 グループディスカッション（グループ内での意見整理と全体共有）
- 30週 1年の振り返り

授業の方法

座学を中心に基礎知識を学び、理解を深めるためにグループディスカッションを取り入れる。ディスカッションでは具体的な事例をもとに意見交換を行い、実践的な思考力の向上を図る。

教材

なし

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、経営戦略やマーケティングの基本用語（SWOT 分析、STP、4P、KPI など）を事前に調べ、授業内容の全体像を把握する。事後学習では、講義やグループワークで扱った事例や分析結果を整理し、自身の考えをまとめ直すことで理解を深め、実践的な思考力の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップスタッフとしての実務経験を基に、ペット業界における店舗運営やサービス提供の仕組みについて指導を行う。ペットビジネスの現状や業界の特徴、経営の基本的な考え方について学び、実際の現場での経験や事例を交えながら、経営やビジネスの基礎知識を理解できるよう指導する。

接客実践

授業の目的・概要

- ・接客をするために必要な知識・技術を身につける。
- ・独立をした時や就職したときの戦力になることを目指す。

科	生命科学科	教員	岡田 有沙
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	動物関連産業 20 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・人と接する中で意識すべきことを知り、接客に役立てる。
- ・売り場を知り、効果的な販売を知る。
- ・POP について理解し、活用できるようになる。
- ・イベント企画の流れを知る。

授業計画

- 第 1/35 回 自己紹介
- 第 2/35 回 授業の説明・導入
- 第 3/35 回 接客とは（人と接するということ）
- 第 4/35 回 第一印象
- 第 5/35 回 人の表情
- 第 6/35 回 人のカーミングシグナルから読み取る相手の気持ち
- 第 7/35 回 しよっぱい（売り場を見る）お客様の目線
- 第 8/35 回 グループワーク（しよっぱいを見て）
- 第 9/35 回 色を与える印象
- 第 10/35 回 人の脳と接客の関係
- 第 11/35 回 売場作成について（配置・並べ方）
- 第 12/35 回 販売のコツ・声かけ・呼び込み・ビラ配り
- 第 13/35 回 店内での受付
- 第 14/35 回 後期振り返り・試験前対策
- 第 15/35 回 前期期末試験（実施）
- 第 16/35 回 自宅課題：ノート提出（まとめ作業）
- 第 17/35 回 前期期末試験（返却・解説）
- 第 18/35 回 電話での予約受付・電話での案内
- 第 19/35 回 しよっぱい（売り場を見る）店員の目線

第 20/35 回 年間行事・効果的なセールの開催法
 第 21/35 回 商品の魅力
 第 22/35 回 POP とは
 第 23/35 回 POP（文字練習）①
 第 24/35 回 POP（文字練習）②
 第 25/35 回 POP（作成のコツ）
 第 26/35 回 POP 作成①
 第 27/35 回 POP 作成②
 第 28/35 回 フォトブースの活用
 第 29/35 回 効果的なイベント開催法①
 第 30/35 回 効果的なイベント開催法②
 第 31/35 回 愚直な販売・クレーム対応
 第 32/35 回 後期振り返り・試験前対策
 第 33/35 回 後期期末試験（実施）
 第 34/35 回 自宅課題：ノート提出（まとめ作業）
 第 35/35 回 後期期末試験（返却・解説）

授業の方法

演習

教材

必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 20%、平常点 20%（出席率、授業態度等）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で出される課題をノートで提出

実務経験と授業科目の関係

接客業における実務経験を踏まえ、実際の現場で必要とされる接客マナーやコミュニケーション能力を重視した指導を行う。演習を通じて実践力の向上を図る。

インターンシップⅡ

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを体験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション
- 第 4 回 インターンシップ② 施設見学と業務内容の把握
- 第 5 回 インターンシップ③ 接客・来客対応の補助
- 第 6 回 インターンシップ④ 電話対応・受付業務の補助
- 第 7 回 インターンシップ⑤ 施設内清掃・衛生管理業務
- 第 8 回 インターンシップ⑥ 飼育環境の整備と安全確認
- 第 9 回 インターンシップ⑦ 動物の健康観察と記録
- 第 10 回 インターンシップ⑧ 給餌・給水業務の補助
- 第 11 回 インターンシップ⑨ 動物の保定補助
- 第 12 回 インターンシップ⑩ 日常ケア業務の補助
- 第 13 回 インターンシップ⑪ 施設備品・消耗品管理

第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮
第 31 回	インターンシップ㉙	担当業務の実践⑯
第 32 回	インターンシップ㉚	担当業務の実践⑰
第 33 回	インターンシップ㉛	担当業務の実践⑱
第 34 回	インターンシップ㉜	総合実践・就業力向上
第 35 回	インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理	

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼育管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動 II

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 18 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）

- 第 19 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 22 回 KAP エキスポへの参加
- 第 23 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 24 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 25 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 26 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 27 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 28 回 卒業研究発表会への参加
- 第 29 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 30 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

動物関連法規学Ⅱ

(授業概要)

「動物関連法規学」は、動物業界に従事するうえで必要となる法的知識を体系的に理解し、適切な判断と実務対応力を養うことを目的とする科目である。動物の法的地位や財産承継、保護動物の取扱い、飼い主の民事責任（民法 718 条）をはじめ、マンション等の飼育規約、寄託・贈与契約、身体障害者補助犬法、獣医師法および愛玩動物看護師法、鳥獣保護管理法など幅広い法規を学ぶ。事例検討や事例分析を通じて、法令遵守意識と動物福祉への理解を深める。試験を通じて知識を定着させ、現場での適正な対応力を育成する。

科	生命科学科	教員	井田 電馬
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

動物の法的立場や飼い主の責任について理解できる。

後期

マンションにおけるペット問題、動物の譲渡等においてトラブルに巻き込まれないために事例などを元に理解していく。

授業計画

- 1 回 動物の法的立場（1）法律における動物の位置づけ
- 2 回 動物の法的立場（2）動物に財産を残す場合 その 1
- 3 回 動物の法的立場（3）動物に財産を残す場合 その 2
- 4 回 動物の法的立場（4）保護動物を飼育する場合 その 1
- 5 回 動物の法的立場（5）保護動物を飼育する場合 その 2
- 6 回 飼い主の法的責任（1）民法第 718 条について その 1
- 7 回 飼い主の法的責任（2）民法第 718 条について その 2
- 8 回 飼い主の法的責任（3）事例を元に考える その 1
- 9 回 飼い主の法的責任（4）事例を元に考える その 2
- 10 回 飼い主の法的責任（5）事例を元に考える その 3
- 11 回 マンションにおけるペット問題（1）管理規約とは
- 12 回 マンションにおけるペット問題（2）使用細則とは

- 13回 マンションにおけるペット問題 (3) ペット可のマンションについて
- 14回 マンションにおけるペット問題 (4) ペット不可のマンションについて
- 15回 動物を預かる際に気を付けるべき事柄 (1) 寄託契約その1
- 16回 動物を預かる際に気を付けるべき事柄 (2) 寄託契約その2
- 17回 動物を預かる際に気を付けるべき事柄 (3) 寄託契約に関する実例
- 18回 動物を譲り渡す際に気を付ける事柄 (1) 贈与契約その1
- 19回 動物を譲り渡す際に気を付ける事柄 (2) 贈与契約その2
- 20回 動物を譲り渡す際に気を付ける事柄 (3) 贈与契約その3
- 21回 身体障害者補助犬法 (1) 法の概要
- 22回 身体障害者補助犬法 (2) 身体障害者補助犬の定義
- 23回 身体障害者補助犬法 (3) アクセスの保証その1
- 24回 身体障害者補助犬法 (4) アクセスの保証その2
- 25回 獣医師法と愛玩動物看護師法 (1) 法の概要
- 26回 獣医師法と愛玩動物看護師法 (2) 診療行為とは何か
- 27回 獣医師法と愛玩動物看護師法 (3) トリマーやトレーナーが行える行為など
- 28回 鳥獣保護法 (1) 身近な動物の規制について その1
- 29回 鳥獣保護法 (2) 身近な動物の規制について その2
- 30回 鳥獣保護法 (2) 身近な動物の規制について その3

講義の方法

講義

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

長らくペット分野の許認可を含む法律事務に関わる業務を行っており、ペットビジネスのサポートを行っている。それらの経験を下地に、プロとして動物に関わっていくために必要な知識などを解説していく。

トレーニングケアゼミ演習

授業の目的・概要

就職に向けて、就職への意識を高めると共に、「知識面」の強化、「レクチャー（インストラクション）」を修得する。就職活動の基盤となる業界研究や面談の機会をとおして、また行事などの意義、振り返りをする事で、自分が目指す職業理解を深め、得た経験をもとに理想の就職活動に繋げる。

科目名	生命科学科	教員	高山 美左・稲岡 愛
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

- ・トレーニング概論・実習の概論部分の補填フォローアップを受けて、将来の犬のトレーニングや問題行動改善等の対応に関して理論部分での強化を行うことができる。
- ・就職に向けて、専門学校の強みは何か、授業がなんのためにあるのか、自分はどのような人間か、自分が目指す企業はどんな企業かを調べ、理解し、話すことができる。
- ・卒業研究発表に向けて、動物や自分の研究したことを人に伝えるということを意識して、グループごとに調べて人前で話すことができる。

授業計画

- 第1週 トレーニング概論講義①学習科学とトレーニングの原理/就職に向けたインターンシップ実習について
- 第2週 トレーニング概論講義②トレーニングタイプを検討する/卒業研究とは、グループ分け、卒業研究の進め方、卒研テーマ決め
- 第3週 トレーニング概論講義③強制トレーニング・誘導トレーニング/研修旅行事前学習①一訪問先・施設調べ（グループワーク）

第4週 トレーニング概論講義④学習（条件付け）/研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討
第5週 トレーニング概論講義⑤学習（報酬、消去）/研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有、スポーツ大会について
第6週 トレーニング概論講義⑥トレーナーが知っておく重要な概念/研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題
第7週 トレーニング概論講義⑦トレーニングのABC/研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化
第8週 トレーニング概論講義⑧級化/就職に向けた履歴書、面接対策
第9週 トレーニング概論講義⑨正の強化/卒業研究進捗報告会
第10週 トレーニング概論講義⑩強化子/就職面談、卒業研究演習
第11週 トレーニング概論講義⑪強化のスケジュール/接練習①実践、卒研演習
第12週 トレーニング概論講義⑫行動の形成/面接練習②実践、卒研演習
第13週 トレーニング概論講義⑬二次性強化子/就職面談、卒業研究演習
第14週 トレーニング概論講義⑭家庭犬のしつけ/KAP エキスポについて
第15週 トレーニング概論講義⑮犬のトレーナー/卒業研究進捗報告会
第16週 トレーニング概論講義⑯犬具（カラー）/面談、卒業研究演習
第17週 トレーニング概論講義⑰乗具（犬具の装着、リード）/仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
第18週 トレーニング概論講義⑱ごほうび/前期のまとめ・調べ学習
第19週 トレーニング概論講義⑲おもちゃ/仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
第20週 トレーニング概論講義⑳行動の形成/仕事内容理解③—1日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
第21週 トレーニング概論講義㉑シェーピング/仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
第22週 トレーニング概論講義㉒望ましくない行動の修正/研修旅行について③・行程・注意確認
第23週 トレーニング概論講義㉓問題行動/研修旅行
第24週 トレーニング概論講義㉔問題行動の対策/研修旅行事後学習①—仕事内容の整理

第 25 週 トレーニング概論講義 25 望ましくない行動を変化させる道具/研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ

第 26 週 トレーニング概論講義 26 問題事例-吠える、かじるなど/研修旅行事後学習③—自分との適性を考える

第 27 週 トレーニング概論講義 27 問題事例-穴掘り、逃走など/面談、各チームにて卒業研究発表準備

第 28 週 トレーニング概論講義 28 問題事例-飛びつき、排泄など/卒業研究発表リハーサル①

第 29 週 トレーニング概論講義 29 人同士のコミュニケーション/面談、卒業研究発表リハーサル②

第 30 週 トレーニング概論講義 30 良いインストラクターになるには/後期のまとめ・調べ学習

授業の方法

・トレーニング概論講義

講義を中心に実践や演習も取り入れる。

・その他演習

説明がメインとなる講義に加え、卒業研究においてはチームごとに研究や発表準備の演習が中心となる。

教材

・トレーニング概論講義

テリー・ライアン著 水越 美奈 監訳『テリー先生の犬のしつけ方教室』

発行所：社団法人 日本動物病院福祉協会（現：公益社団法人 日本動物病院協会）発行年：2004 年

上記を元に必要箇所を授業中に適宜配布していく。

評価の方法

前期：成果発表 80%、インターンシップ実習評価 20%で総合的に評価する。

後期：必須資格（後期取得分）の取得 80%、インターンシップ実習評価 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

・オープンキャンパスにて、高校生または保護者への接客、レクチャーを重ねる

参加時、報告（良かった点、反省点など）を行う。

・卒業研究発表準備において、チームごとに進める。適宜担当者への報告を行う。

実務経験と授業科目の関係

高山：JAHA 認定インストラクター。DOGSLIFE 主宰。現役でトレーナーとして活動し飼い主指導を行う。

稲岡：17 年専門学校学生への指導。ペット系業界にて、必要とされるビマナーや就職活動における心構えを交えての授業を行う。

グルーミング概論・実習Ⅱ

(授業概要)

本実習は、犬の安全な取り扱いと基礎的なグルーミング技術を段階的に習得し、現場で求められる実践力を養うことを目的とする。小型犬から中型犬・大型犬までを対象に、体調チェックを含む基本ケア、ブラッシング、死毛除去、ドライイングなどの基礎技術を習得する。また、部位別カット（お尻・お腹下・前肢飾り毛・胸・下回りなど）を通して、犬種や体格に応じた適切な仕上げ技術を身につける。複数人での作業から一人での全工程実施へと段階的に移行することで、作業手順の理解と効率的な技術習得を図る。さらにライセンス試験を通じて総合的な技能の定着と向上を目指す。

	生命科学科		山崎 雅代・白瀬 貴子
コース	トレーニングケアゼミ	の	トリマー4年
	2年		6単位

前期

犬に負担がかからないようにグルーミングが出来るスキルを習得できる。

中型犬・大型犬・動き回る犬の保定が出来るようになる。

後期

1人で1頭仕上げる事が出来るようになる。

ベーシックマスターライセンス取得することができる。（チワワ 90分・ダックスフンド、パピヨン 105分以内）

1回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボンつけ	小型犬 130分
2回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボンつけ	小型犬 120分
3回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボンつけ	小型犬 110分
4回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボンつけ	小型犬 100分
5回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～リボンつけ	小型犬 130分
6回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～リボンつけ	小型犬 120分
7回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～リボン付け	小型犬 110分
8回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～リボン付け	小型犬 100分
9回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～リボン付け	チワワ 90分
10回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～リボン付け	ダックス 115分
11回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬死毛取り
12回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬死毛取り復習

13回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬死毛取り、ドライイング
14回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬ドライイング復習
15回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 200分
16回	前期試験、グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 190分
17回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 180分
18回	試験返却、試験の振り返り、グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 170分
19回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 160分
20回	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 150分
21回	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 250分
22回	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 240分
23回	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 230分
24回	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 220分
25回	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 210分
26回	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 200分
27回	グルーミング実習・ライセンス試験（2週に分けて実施）①チワワ	90分	
28回	グルーミング実習・ライセンス試験（2週に分けて実施）②チワワ	90分	
29回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～リボン付け、お尻カット	
30回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～お尻カットの復習	
31回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～お尻カット、お腹下カット	
32回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～お腹下カットの復習	
33回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～お腹下カット、前肢飾り毛カット	
32回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～前肢飾り毛カットの復習	
33回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～前肢飾り毛カット、胸カット	
34回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～胸カットの復習	
35回	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～下周りカットの復習	

の

ブリーダーやモデル犬の様々な犬種を使用し実技実習を行う

グルーミング用品+講義プリント(下回りカットの方法)

の

定期試験（実技）30%、授業態度（意欲態度 30%、言葉遣い 10%、犬の扱い方 30%）70%で総合的に評価する。

での

ハサミの動かし方を自宅で練習しながら、イメージトレーニングを行う。

グルーミングの手順や掃除の手順、消毒の希釈方法をレポート用紙に書き出し整理する。

との

トリミングサロンにて4年間トリマーとして勤務。技術的な指導はもちろん、店長の経験も活かして接客のスキルも学生に教授することができる。

トレーニング概論・実習Ⅱ

(授業概要)

本実習は、犬の行動学および学習理論に基づいたトレーニング技術の基礎から応用までを体系的に習得することを目的とする。犬のボディランゲージやストレスサインの理解、適切な取り扱い方法、犬具の使用法を学び、人と犬の安全で良好な関係構築を目指す。また、古典的条件付けやオペラント条件付け、強化・消去・般化などの学習理論を実践的に理解し、フリーシェイピング等の技法を通じて行動形成の手法を習得する。さらに、アジリティやノーズワーク等のドッグスポーツ、問題行動の予防・修正、犬のライフステージに応じた対応について学び、実践力と応用力を高める。最終的にマナーハンドラーとしての基礎能力の確立を目指す。

科	生命科学科	担当教員	高山美左
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	○
学年	2年	単位	6単位

- ・犬のボディランゲージやストレスサインを適切に観察し理解することができる。
- ・学習理論に基づいたトレーニング手法を用いて基本的な行動形成を行うことができる。
- ・犬具の正しい使用方法を理解し、安全に犬を扱うことができる。
- ・犬の問題行動やライフステージに応じた適切な対応方法を判断することができる。

- 第1週 実習の諸注意の確認、犬の散歩等の管理と取り扱いの確認、班分け、担当犬決め
- 第2週 犬のボディランゲージ、ストレスサイン、カーミングシグナルの確認
- 第3週 人と犬との生活について、リードプログラムの確認
- 第4週 トレーニングに必要な犬具の扱い方について
- 第5週 家庭犬に必要な基本動作の教え方
- 第6週 犬の行動と学習原理
- 第7週 犬の学習とは
- 第8週 拮抗条件付けとオペラント条件付け
- 第9週 行動の強化と消去
- 第10週 行動の般化と状況学習
- 第11週 正の強化とトレーニングの概念
- 第12週 強化の法則と強化スケジュール/強化子とは
- 第13週 二次性強化子とは

第14週	フリーシェイピングとは
第15週	フリーシェイピングで行動を教える
第16週	テスト
第17週	テスト
第18週	テスト返し
第19週	様々なドッグスポーツについて・アジリティ
第20週	アジリティ
第21週	ノーズワーク
第22週	ノーズワーク・ドッグダンス
第23週	ドッグダンス
第24週	問題行動の予防
第25週	問題行動の修正について1
第26週	問題行動の修正について2
第27週	問題行動の修正について3
第28週	問題行動の修正についてクラスセッション
第29週	犬の健康と行動の関係
第30週	犬のボディコンディショニング
第31週	犬のシニア期にける行動の変化1
第32週	犬のQRL
第33週	テスト
第34週	テスト
第35週	マナーハンドラーテスト

の

座学 実技実習

テキスト、DVD、犬具、トレーニング用具等

の

試験 80%、実習記録ファイル提出 20%で総合的に評価する。

での

実習犬の散歩等を通しての犬の管理や取り扱い

との

あり、陽性強化法を用いた訓練を通し、正しい犬との関係性の構築の仕方を教える

アニマルケア概論

授業の目的・概要

本授業は、動物看護および飼育現場において必要となるアニマルケアの基礎概念と実践的知識を体系的に理解することを目的とする。動物の行動特性や健康状態の把握方法、日常的な給餌・衛生管理・ハンドリング技術を学び、適切なケアを行うための基礎力を養う。また、動物福祉の視点に基づき、ストレス軽減や環境エンリッチメントの重要性を理解するとともに、種別やライフステージに応じたケアの違いを学習する。さらに、チーム医療や飼い主対応も含めた総合的な動物ケア能力の育成を図る。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	ペット系企業経営
対象年次	2 年次	年間単位数	2 単位

目標

- ・動物の行動や健康状態を観察し、基本的なアニマルケアを実践できる
- ・給餌・衛生管理・ハンドリングなどの日常ケア技術を身に付ける
- ・動物福祉の観点から適切な飼育環境やストレス軽減方法を説明できる
- ・種やライフステージに応じたケアの違いを理解し、適切に対応できる

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（授業概要・動物ケアの意義）
- 第2週 動物ケアの基本概念（ケア・福祉・管理の違い）
- 第3週 動物福祉の基本原則
- 第4週 動物の行動理解①（本能行動・学習行動）
- 第5週 動物の行動理解②（ストレス行動・問題行動）
- 第6週 動物の観察方法
- 第7週 健康状態の基本評価

第 8 週	日常ケアの基礎①（給餌・給水）
第 9 週	日常ケアの基礎②（清掃・環境整備）
第 10 週	ハンドリング技術の基礎
第 11 週	保定方法と安全管理
第 12 週	ストレス管理と環境エンリッチメント
第 13 週	感染症予防と衛生管理
第 14 週	動物の栄養管理の基礎
第 15 週	中間まとめ・実技確認
第 16 週	動物種別ケアの違い
第 17 週	犬のケア実践
第 18 週	猫のケア実践
第 19 週	小動物のケア実践
第 20 週	高齢動物のケア
第 21 週	幼齢動物のケア
第 22 週	リハビリ・補助ケアの基礎
第 23 週	行動修正とトレーニング基礎
第 24 週	飼育環境デザイン①
第 25 週	飼育環境デザイン②（改善）
第 26 週	チームケアと連携（動物看護・飼育員連携）
第 27 週	飼い主対応・インフォームドケア
第 28 週	動物福祉事例研究
第 29 週	総合ケア実習（シミュレーション）
第 30 週	まとめ・最終評価・振り返り

授業の方法
講義形式

教材

必要な資料を授業中に配布する。

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、各回のテーマに関連する動物種の特徴やケア方法について教科書や資料を読み、基本用語や手順を整理する。事後学習として、授業で学んだ内容を振り返り、実習記録やノートにまとめることで理解を深め、実践場面を想定して知識の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

現場の実務と経営の双方に携わっており、その経験を通じて得た実践的な動物ケアや顧客対応、サービス品質管理の知識を授業に反映できる点が特徴である。アニマルケアは単なる飼育技術にとどまらず、飼い主満足度や動物福祉、事業運営とも密接に関わるため、現場での判断基準や経営視点を交えた指導により、実務に直結した理解を深めることができる。

コンパニオンキャットⅡ

授業の目的・概要

ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来るようになる。この人（学生）に質問したら、分かり易く的確に説明してくれると、思われるようになる為に学習する。

科目名	生命科学科	教員	上田阿由美
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来るようになる。
- ・この人（学生）に質問したら、分かり易く的確に説明してくれる人物になることができる。
- ・正しいブリーディング（遺伝病、血液型含む）を身に付ける。
- ・猫種のスタンダード、毛色の遺伝、老猫のケア、病気などについて理解を深めることができる。

授業計画

前期

- 1 回目 ブリーディング① 正しいブリーディングの目的 猫の血液不適合（FNI）を説明する。
- 2 回目 ブリーディング② 4つのブリーディング法 アウトブリード・ラインブリードの説明
- 3 回目 ブリーディング③ 4つのブリーディング法 ラインブリード（遺伝病 PKD/心筋症）
- 4 回目 ブリーディング④ インブリード・ハイブリード
スタンダード（オリエンタルタイプの猫種）を説明する。
- 5 回目 スタンダード ハイブリードの猫種（トンキニーズ・ボンベイ・オシキャット）のスタンダードの説明をする。

- 6 回目 スタンダード コピータイプの猫種（ベルシャ・エキゾチック）を説明する。
- 7 回目 スタンダード コートの特徴のある猫種（セルカークレックス・デボンレックス・
コーニッシュレックス・スフィンクス・アメリカンワイヤーヘア・ラパー
マ）
- 8 回目 ブリーディング⑤ 母猫の交配前管理の仕方を説明する。
- 9 回目 ブリーディング⑥ 発情～交配までを説明する。
- 10 回目 ブリーディング⑦ 交配後の母猫の管理を説明する。
- 11 回目 ブリーディング⑧ 受精～受胎確認（母猫の体の変化）を説明する。
- 12 回目 ブリーディング⑨ 妊娠中の母猫の管理の仕方、出産準備を説明する。
- 13 回目 ブリーディング⑩ 出産前の母猫の体・行動の変化を説明する。
- 14 回目 ブリーディング⑪ 出産の流れ（出産中・産後のトラブルを説明する。
- 15 回目 ブリーディング⑫ 新生児について（人工哺乳・離乳）を説明する。

後期

- 16 回目 猫のカラー（毛色）① 毛色の種類（ソリッド・バイカラー等）を説明する。
- 17 回目 猫のカラー（毛色）② 毛色の種類（アグーチ）を説明する。
- 18 回目 猫のカラー（毛色）③ 毛色の種類（ポイントカラー）を説明する。
- 19 回目 猫のカラー（毛色）④ メスのみの毛色・ブラック&オレンジの遺伝を説明する。
- 20 回目 猫のカラー（毛色）⑤ 両親の毛色が子猫にどのように表れるかを説明する。
- 21 回目 猫のカラー（毛色）⑥ カラー遺伝のチャート表を配布して、説明する。
- 22 回目 猫の病気 予防（ワクチネーション）を復習する。
- 23 回目 猫の病気 飼い主がより早く病気に気が付くためのポイントを説明する。
- 24 回目 老猫のケア① 体・行動、その他の変化説明する。
- 25 回目 老猫のケア② 自宅で出来る毎日のケアの説明をする。
- 26 回目 老猫の病気 慢性腎不全・甲状腺機能亢進症等を説明する。
- 27 回目 スタンダード 残りの猫種の説明をする。

28 回目 キャットショーについて① キャットショーの目的の説明

29 回目 キャットショーについて② 形式・フラットリボン・ロゼットの説明をする。

30 回目 1 年間の総まとめ

授業の方法

座学（講義）

教材

CFA 公認猫種カラープリント

緑書房「猫の教科書」

授業外での学習方法

提出物として、宿題を出す場合がある。（内容は未定）

機会があればキャットの見学

評価の方法

平常点（出席率・授業中の態度・意欲）

提出物 小テスト

前期・後期テスト

%は小テストその他で回数が決定していないので、未定です。

実務経験と授業科目の関係

昭和 52 年～純血猫種のブリーディング

平成 3 年～10 年まで、猫と犬のグルーミングサロン経営

平成 9 年～令和 4 年まで、CFA 所属「がんば神戸キャットクラブ」代表

神戸学園動物系開校から非常勤講師

平成 11 年～現在に至る CFA (U.S.A) 公認インターナショナルオールブリードジャッジ

コンパニオンキャットⅡ

授業の目的・概要

ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来るようになる。この人（学生）に質問したら、分かり易く的確に説明してくれると、思われるようになる為に学習する。

科目名	生命科学科	教員	上田阿由美
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来るようになる。
- ・この人（学生）に質問したら、分かり易く的確に説明してくれる人物になることができる。
- ・正しいブリーディング（遺伝病、血液型含む）を身に付ける。
- ・猫種のスタンダード、毛色の遺伝、老猫のケア、病気などについて理解を深めることができる。

授業計画

前期

- 1 回目 ブリーディング① 正しいブリーディングの目的 猫の血液不適合（FNI）を説明する。
- 2 回目 ブリーディング② 4つのブリーディング法 アウトブリード・ラインブリードの説明
- 3 回目 ブリーディング③ 4つのブリーディング法 ラインブリード（遺伝病 PKD/心筋症）
- 4 回目 ブリーディング④ インブリード・ハイブリード
スタンダード（オリエンタルタイプの猫種）を説明する。
- 5 回目 スタンダード ハイブリードの猫種（トンキニーズ・ボンベイ・オシキャット）のスタンダードの説明をする。

- 6 回目 スタンダード コピータイプの猫種（ベルシャ・エキゾチック）を説明する。
- 7 回目 スタンダード コートの特徴のある猫種（セルカークレックス・デボンレックス・
コーニッシュレックス・スフィンクス・アメリカンワイヤーヘア・ラパー
マ）
- 8 回目 ブリーディング⑤ 母猫の交配前管理の仕方を説明する。
- 9 回目 ブリーディング⑥ 発情～交配までを説明する。
- 10 回目 ブリーディング⑦ 交配後の母猫の管理を説明する。
- 11 回目 ブリーディング⑧ 受精～受胎確認（母猫の体の変化）を説明する。
- 12 回目 ブリーディング⑨ 妊娠中の母猫の管理の仕方、出産準備を説明する。
- 13 回目 ブリーディング⑩ 出産前の母猫の体・行動の変化を説明する。
- 14 回目 ブリーディング⑪ 出産の流れ（出産中・産後のトラブルを説明する。
- 15 回目 ブリーディング⑫ 新生児について（人工哺乳・離乳）を説明する。

後期

- 16 回目 猫のカラー（毛色）① 毛色の種類（ソリッド・バイカラー等）を説明する。
- 17 回目 猫のカラー（毛色）② 毛色の種類（アグーチ）を説明する。
- 18 回目 猫のカラー（毛色）③ 毛色の種類（ポイントカラー）を説明する。
- 19 回目 猫のカラー（毛色）④ メスのみの毛色・ブラック&オレンジの遺伝を説明する。
- 20 回目 猫のカラー（毛色）⑤ 両親の毛色が子猫にどのように表れるかを説明する。
- 21 回目 猫のカラー（毛色）⑥ カラー遺伝のチャート表を配布して、説明する。
- 22 回目 猫の病気 予防（ワクチネーション）を復習する。
- 23 回目 猫の病気 飼い主がより早く病気に気が付くためのポイントを説明する。
- 24 回目 老猫のケア① 体・行動、その他の変化説明する。
- 25 回目 老猫のケア② 自宅で出来る毎日のケアの説明をする。
- 26 回目 老猫の病気 慢性腎不全・甲状腺機能亢進症等を説明する。
- 27 回目 スタンダード 残りの猫種の説明をする。

28 回目 キャットショーについて① キャットショーの目的の説明

29 回目 キャットショーについて② 形式・フラットリボン・ロゼットの説明をする。

30 回目 1 年間の総まとめ

授業の方法

座学（講義）

教材

CFA 公認猫種カラープリント

緑書房「猫の教科書」

授業外での学習方法

提出物として、宿題を出す場合がある。（内容は未定）

機会があればキャットの見学

評価の方法

平常点（出席率・授業中の態度・意欲）

提出物 小テスト

前期・後期テスト

%は小テストその他で回数が決定していないので、未定です。

実務経験と授業科目の関係

昭和 52 年～純血猫種のブリーディング

平成 3 年～10 年まで、猫と犬のグルーミングサロン経営

平成 9 年～令和 4 年まで、CFA 所属「がんば神戸キャットクラブ」代表

神戸学園動物系開校から非常勤講師

平成 11 年～現在に至る CFA (U.S.A) 公認インターナショナルオールブリードジャッジ

基礎健康管理学Ⅱ

(授業概要)

犬・猫を中心とした動物の緊急時における症状の把握、応急処置、および予防策に関する基礎知識を習得するとともに、新生子ケアからエンジェルケアに至るまで、動物の一生の各ステージに適した専門的ケアのあり方を包括的に理解することを目的とする。

科	生命科学科	担当教員	寺島 友美
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	動物病院勤務 7 年・一般企業営業 5 年・ペット用品卸の会社広報(営業)1 年半
学年	2 年	単位	1 単位

前期

- ・動物のエマージェンシーの定義を正しく理解し、異変を早期に察知するための観察ポイントと専門知識を習得することができる。
- ・トレーナーとして現場で求められる最低限の応急処置、適切な扱い方、および事故の予防策を身につけることができる。

後期

- ・引き続きトレーナーが現場で直面しうる緊急事態への的確な初期対応と予防策を定着することができる。
- ・動物の一生における起点と終点である「新生子ケア」および「高齢ケア」「エンジェルケア（死後処置）」について、専門的な扱い方と注意点を習得することができる。

- 1 回 授業について エマージェンシーとは
- 2 回 状態確認の方法① TPR・BW・全身チェックの復習
- 3 回 状態確認の方法② 異常時の確認方法について
- 4 回 応急処置 外傷
- 5 回 応急処置 出血
- 6 回 応急処置 やけど① 概要・状態の確認方法
- 7 回 応急処置 やけど② 応急処置・その後の流れ
- 8 回 応急処置 熱中症① 概要・状態の確認方法
- 9 回 応急処置 熱中症② 応急処置・その後の流れ
- 10 回 応急処置 熱中症について飼い主指導 デモンストレーション

- 11 回 応急処置 ショック① 概要・状態の確認方法
- 12 回 応急処置 ショック② 応急処置・その後の流れ
- 13 回 応急処置 骨折①
- 14 回 応急処置 骨折② 応急処置・その後の流れ
- 15 回 前期まとめ(試験対策)
- 16 回 心肺蘇生について①
- 17 回 心肺蘇生について② 実習
- 18 回 応急処置 眼球摘出
- 19 回 応急処置 けいれん① 概要・状態の確認方法
- 20 回 応急処置 けいれん② 応急処置・その後の流れ
- 21 回 応急処置 窒息
- 22 回 応急処置 誤食/中毒① 概要・状態の確認方法
- 23 回 応急処置 誤食/中毒② 応急処置・その後の流れ
- 24 回 応急処置のまとめ(トリマーとして出来ること)
- 25 回 新生子ケア① 概要・母犬のケア
- 26 回 新生子ケア② 仔犬もケア
- 27 回 高齢動物への自宅でのケア
- 28 回 高齢動物への預かり時のケア
- 29 回 エンジェルケア
- 30 回 後期まとめ(試験対策)

授業の方法

講義形式を中心に進めていく。

コンパニオンアニマルの新健康管理学

⇒(著者:浅野妃美・浅野隆司 発行所:株式会社エドワードプレス 発行年:2025年3月27日)

愛玩動物看護師カリキュラム準書教科書 9巻

⇒(監修者:嵯上大吾 小田民美

発行所:株式会社エドワードプレス 発行年:2025年2月7日)

の

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、テキスト等を用いてエマージェンシーの基本概念や TPR・BW などの状態確認方法、各疾患や外傷の特徴・応急処置の流れを予習する。事後学習では、授業で学んだ応急処置や判断手順を整理し、ケースごとの対応方法を振り返ることで知識を定着させ、実践的な判断力の向上を図る

との

動物看護師としての勤務経験とペット用品卸会社広報の経験から、現場で遭遇するエマージェンシーの一次対応や応急処置を的確に伝えることができる

動物愛護推進活動

授業の目的・概要

本授業は、動物愛護および動物福祉の理念を正しく理解し、社会における動物保護の現状と課題を踏まえた上で、適切な啓発活動や推進活動を企画・実践できる力を養うことを目的とする。動物愛護関連法規や保護動物の現状、地域や動物愛護団体の取り組みについて学び、適正飼養や遺棄防止などの社会的課題に対する理解を深める。また、ポスター作成やイベント企画、地域連携活動などの実践的活動を通じて、情報発信力や協働力を身に付け、動物と人が共生できる社会づくりに貢献する意識を育成する。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	ペット系企業経営
対象年次	2 年次	年間単位数	5 単位

目標

- ・動物愛護および動物福祉の基本理念と関連法規を理解し、説明できる
- ・動物保護や適正飼養に関する社会的課題を把握し、自分の考えを述べるができる
- ・グループで協力しながら啓発活動やイベント企画を立案・実施できる
- ・動物愛護推進活動を通して、情報発信力と社会貢献意識を身に付ける

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（授業目的・動物愛護の意義）
- 第2週 動物愛護と動物福祉の基礎
- 第3週 動物愛護関連法規の基礎
- 第4週 現代社会における動物問題
- 第5週 動物虐待・遺棄の現状と課題
- 第6週 保護動物の現状と支援活動
- 第7週 動物愛護団体の役割
- 第8週 地域活動とボランティアの基礎
- 第9週 啓発活動の方法①（ポスター・チラシ）
- 第10週 啓発活動の方法②（SNS 活用）
- 第11週 イベント企画基礎
- 第12週 イベントテーマ設定
- 第13週 グループ企画①
- 第14週 グループ企画②（修正・改善）
- 第15週 中間発表①
- 第16週 中間発表②振り返り

第 17 週	動物保護施設の事例研究
第 18 週	譲渡活動の仕組み
第 19 週	適正飼養の啓発
第 20 週	多頭飼育問題と対策
第 21 週	地域連携活動の設計
第 22 週	学校・地域向け啓発活動計画
第 23 週	啓発教材作成①
第 24 週	啓発教材作成②
第 25 週	模擬イベント準備
第 26 週	模擬イベント実施①
第 27 週	模擬イベント実施②（改善）
第 28 週	参加者フィードバック分析
第 29 週	改善企画立案
第 30 週	最終イベント企画①
第 31 週	最終イベント企画②（準備）
第 32 週	リハーサル
第 33 週	最終発表・実施
第 34 週	振り返りレポート作成
第 35 週	総括・評価・講評

授業の方法

実践的な学びを取り入れて進めていく。

教材

特に指定はないが、必要な資料を授業中に配布していく。

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、動物愛護や動物福祉に関する法規や現状課題について資料やニュースを調べ、基礎知識を整理する。事後学習として、授業内容やグループワークの成果を振り返り、啓発活動の改善点や学びをまとめることで理解を深め、実践力の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

動物福祉を前提としたサービス提供や顧客対応、適正飼養の啓発活動に日常的に携わっている。そのため、

動物愛護推進活動において必要となる現場視点での課題把握や、実際の事業運営と連動した啓発方法について具体的に指導することができる。また、企業活動と社会貢献の両立という観点から、実効性のある企画立案や地域連携のあり方についても実践的に学ぶことができる。

動物行動学

授業の目的・概要

動物を扱う職業にとって不可欠である動物の行動・心理とコミュニケーションについて学ぶ。また行動を導くための学習理論について理解を深め、近年問題意識が高まっている犬と猫の問題行動について詳しく学び、その予防や初期対応の知識を身につける。

科	生命科学科	教員	中野 あや
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	獣医師 (一般臨床と行動専門科各10年)
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

前期

- ・動物行動学の基礎として、維持行動、社会行動などの行動の発現と発達について理解する
- ・犬と猫のコミュニケーション方法とその意味、行動の誘発刺激と動機づけについて理解する

後期

- ・動物の行動を導くための学習理論について理解し、獣医療で実施される行動診療の流れを学ぶ
- ・犬と猫の問題行動について学び、問題行動の予防と初期指導の知識を身につける

授業計画

- 第1週 動物行動学とは、導入「無駄吠え」
- 第2週 猫のコミュニケーション・猫の行動観察
- 第3週 犬のコミュニケーション・犬の行動観察
- 第4週 動物行動学の歴史、ダーウィンとローレンツ
- 第5週 行動の進化と適応・家畜化
- 第6週 維持行動

第7週 社会行動

第8週 前期前半まとめ、復習とディスカッション

第9週 刺激と情動と動機づけ

第10週 行動に影響を与える要因：遺伝と環境

第11週 行動の発達と社会化期

第12週 学習理論①馴化・感作と脱感作・般化

第13週 学習理論②古典的条件づけ

第14週 学習理論③オペラント条件づけ

第15週 前期のまとめ、復習とディスカッション

第16週 学習理論の復習：古典的条件づけ・オペラント条件づけ

第17週 学習理論④強化・消去・行動形成

第18週 問題行動の定義と社会の問題

第19週 行動診療とは、正の罰について

第20週 問題行動①犬猫の排泄トラブル

第21週 問題行動②犬猫の不安障害

第22週 後期前半まとめ、復習とディスカッション

第23週 問題行動③犬猫の攻撃行動

第24週 問題行動④犬猫の転位行動・常同行動

第25週 問題行動の予防・快適な環境

第26週 問題行動⑤動物病院における問題行動

第27週 近年の動物病院の取りくみ：オヤツ外来とハズバンダリートレーニング

第28週 行動診療で用いる その他の療法

第29週 グループディスカッション：「無駄吠え」

第30週 1年間の総まとめ

授業の方法

授業用プリントへの書き込み、板書、動画教材、犬猫生体の行動観察を用いる

教材

授業用プリント、参考書籍、資料動画

評価の方法

試験 80%（自宅課題の評価を含む）、授業への参画 20% で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事後学習：各授業回のプリントの復習、行動観察の実践、参考書籍の読書、授業時間外の質問対応

実務経験と授業科目の関係

獣医行動診療科認定医 2023 年取得。問題行動専門の往診クリニック院長であり講師・講演にも従事。

動物人間関係学

(授業概要)

人と動物の関係について歴史的背景を踏まえながら理解を深め、日本と海外における動物観の違いについて学び、ペット動物や産業動物など、動物の役割ごとの立場を整理する。そして、動物それぞれにおける人との関わり方について考察する。さらに、動物福祉に関する諸問題を取り上げ、その現状を理解するとともに、課題に対して主体的に考える力を養う。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	年間単位	1単位

目標

前期

- ・人と動物の関係の歴史的変遷について理解するとともに、ペット動物以外にも産業動物や展示動物など役割ごとの動物の立場について把握することができる。
- ・それぞれの立場における動物福祉の現状と課題について理解し、多角的な視点から捉える基礎的な考察力を身に付けることができる。

後期

- ・動物が人に与える影響（心理的・社会的効果など）について理解を深めるとともに、動物福祉に関する問題の現状を把握することができる。
- ・課題に対して自ら考え、適切な関係性や解決の方向性について主体的に考察できる応用的な思考力を身に付けることができる。

授業計画

- 1回 現代のペット事情を知る
- 2回 現代のペット問題を考えよう
- 3回 ヒトと動物の歴史(日本：はじまり)
- 4回 ヒトと動物の歴史(日本：中期)
- 5回 ヒトと動物の歴史(日本：戦後)
- 6回 ヒトと動物の歴史(世界：はじまり)
- 7回 ヒトと動物の歴史(世界：中期)
- 8回 ヒトと動物の歴史(世界：戦後)
- 9回 動物福祉・動物愛護

- 10 回 法律上での動物
- 11 回 産業動物の福祉と課題
- 12 回 実験動物の福祉と課題
- 13 回 展示動物の福祉と課題
- 14 回 野生動物の福祉と課題
- 15 回 動物が人に及ぼす影響
- 16 回 子どもと動物
- 17 回 高齢者と動物
- 18 回 罪を犯した人と動物
- 19 回 殺処分について考える
- 20 回 殺処分についての現状
- 21 回 動物虐待について考える
- 22 回 動物虐待についての現状
- 23 回 多頭飼育崩壊について考える
- 24 回 多頭飼育崩壊についての現状
- 25 回 ペットロスについて考える
- 26 回 ペットロスについての現状
- 27 回 ペットの安楽死について考える
- 28 回 ペットの安楽死についての現状
- 29 回 ペットの社会進出について考える
- 30 回 ペットの社会進出の現状

授業の方法

講義・グループディスカッション

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内容の復習を行い、人と動物の関係や動物福祉に関するテーマについて自らの考えを整理すること。
また、関連するニュースや資料、文献等を活用し、多角的な視点から理解を深める。

実務経験と授業科目の関係

担当教員は総合ペットショップにおける実務経験を有しており、動物と人が関わる現場での経験を踏まえ、人と動物の関係性や動物福祉に関する多様な価値観について考察する視点を提示する。これにより、

学生が主体的に考える力の育成を図る。

老齢犬ケア概論

授業の目的・概要

本授業は、老齢犬の身体的・心理的变化およびそれに伴う適切なケア方法を理解し、高齢犬に対する総合的な知識と実践力を身につけることを目的とする。犬の成長過程や老化の要因を基礎として、各臓器系の加齢変化を体系的に学び、健康管理や生活環境の工夫、介護方法について理解を深める。また、飼い主への情報提供や動物病院との連携、セラピーや自然療法など多様な支援の在り方についても学習する。さらに、ペットロスを含む精神的ケアにも触れ、老齢犬とその飼い主双方に寄り添う視点を養い、動物福祉の観点から適切な対応ができる力を育成する。

科	生命科学科	教員	稲岡
コース	トレーニングケアゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期では老齢犬の基礎健康管理を学び、どのような変化が訪れ、どのように対応していくのかを学び、老犬がどのようなものかをイメージできるようになる。

後期では老齢犬の介護の方法、家庭でのケア方法、オーナー様のケアを学び、具体的に将来どのように活かしていくのかを各自考えられるようになる。

授業計画

- 1 回 授業の説明、「老齢」とは？
- 2 回 犬の成長と老犬期
- 3 回 高齢化
- 4 回 老化の要因
- 5 回 飼い主への情報提供①食餌、健康管理など
- 6 回 飼い主への情報提供②運動、別離
- 7 回 老齢犬の身体的変化①皮膚・被毛
- 8 回 老齢犬の身体的変化②消化器
- 9 回 老齢犬の身体的変化③歯

- 10 回 老齢犬の身体的変化④呼吸器
- 11 回 老齢犬の身体的変化⑤生殖器
- 12 回 老齢犬の身体的変化⑥泌尿器
- 13 回 老齢犬の身体的変化⑦筋・骨格
- 14 回 老齢犬の身体的変化⑧心血管・血液
- 15 回 老齢犬の身体的変化⑨神経
- 16 回 老齢犬の身体的変化⑩感覚器
- 17 回 セラビー
- 18 回 前期の振り返り・調べ学習
- 19 回 老犬介護とは
- 20 回 生活の工夫①運動、徘徊
- 21 回 生活の工夫②生活スペース、食餌
- 22 回 介護と療法
- 23 回 動物病院、獣医師との関わり
- 24 回 介護のまとめと将来働く際の活かし方
- 25 回 自然医学療法
- 26 回 老齢犬のオーナーケア①ペットを亡くしたら
- 27 回 老齢犬のオーナーケア②ペットロスとは
- 28 回 老齢犬のオーナーケア③ペットロスによる感情反応と心理状態
- 29 回 老齢犬のオーナーケア④ペットロスによる悲しみ
- 30 回 後期の振り返り・調べ学習

授業の方法

老犬及びその飼い主の対応に活かすための知識を学ぶ講義

教材

特になし（授業で使用する補足プリントについては、必要に応じて授業中に適宜配布していく。）

評価の方法

前期…筆記試験 80%、授業への参画 20%で総合的に判断する。

後期…授業内の知識をもとにした実技試験とそれに伴う提出物 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

機会があれば老齢犬に関わり、普段の様子を観察し、ノートに記しておく。

機会がない場合は、各項目において将来どのように飼い主さんへのアドバイスを行うかを考えて整理しておく。

実務経験と授業科目の関係

専門学校にて老犬に関する知識を学び、自身の愛犬、また日常生活において関わる犬の成長や介護に関わりながら、セミナー参加や自己学習を重ね、経験や新しい知識を交えての授業を行う。